

東信同窓連の旅行で東御市「巨峰まつり」に参加！（9月15日）

長野県東信地区の高校OB（同窓会）で構成される東信同窓連の恒例行事である秋の一泊旅行に、丸山暢久君（4組、東信同窓連の理事）と上原昇（2）の2名が上田高校関東同窓会から参加した。参加メンバーは10校、男女25名で最年少が63歳という高齢者グループであった。

関東同窓会の幹事長に就任した丸山君は、立場上、出番が多く激務である。

現在の東信同窓連会長は、東部高校（現東御清翔高校）OBということもあり、今回の旅は東御市一辺倒の内容であった。

東御市は、2004年に旧小県郡東部町と北佐久郡北御牧村が合併してから、10年経過したのはご存知のとおり。

9月14日（金）、貸切バスは池袋から関越経由、海野宿（東御市）へ。

その後東御市役所、東御清翔高校を視察して、この日の宿泊場所の湯の丸高原ホテルにチェックイン。標高1,700mに位置する同ホテル周辺は涼しく爽やかで暑さ知らず。翌15日（土）は、「第21回巨峰の王国まつり」を見物に東御中央公園へ。

2日間で数万人が来場するというビッグイベントは、多数の屋台、ステージでのショー、巨峰（関連商品）の販売・試食などメニュー満載。

参加者は広い会場の各所で巨峰に舌づつみ、お土産にも巨峰を沢山買って大満足の様子であった。

帰路は、湯楽里（ゆらり）館という日帰り温泉施設で昼食、道の駅：雷電（東御市出身の名力士）くるみの里に立ち寄り、東京へ。

大勢いる東御市出身の同期にとっても、故郷のイベントや名所に多くの人が訪れるのは嬉しいことであろう。

（9月15日、上原記）

